題名：がん悪液質に対するアナモレリン投与患者における臨床使用経験について

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 （承認番号）	トリフルリジン・チピラシルの治療開始時用量が治療効果へ及ぼす影響に関する調査 （　）
当院の研究責任者 （所属）	稲田　佑亮 （薬剤部）
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	切除不能進行大腸癌、胃癌に対して、トリフルリジン・ チピラシル塩酸塩（以下、FTD/TPI）は、3 次治療において 優れた有効性・安全性が報告されています。FTD/TPI の主な有害事象として好中球数減少が高頻度に発現し休薬・減量等の要因となります。しかし、効果発現や安全性の予測因子に関する報告は少なく臨床上は副作用軽減と治療継続を期待して、初回投与時の減量が行われることがあります。一方で、初回投与時の減量が好中球減少発現や治療継続に及ぼす影響のエビデンスは十分ではないため、今回はその有用性と安全性を検証します。
研究の方法 （利用する試料・情報）	2014 年 5 月 から 2023 年 6 月 に横浜労災病院（以下、当院）にて FTD/TPI による治療を受けた患者さんを対象とします。年齢、性別、癌種、腎機能、レジメン、治療ライン、投与量、総投与期間、減量理由、投与延期の有無、治療終了理由、相対用量強度（以下、RDI）について電子カルテより後方視的に調査します。 研究実施期間：2023 年 12 月～2024 年 3 月
利用する試料・情報の 該当期間	2014 年 5 月～2023 年 6 月
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	なし

個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	担当者：稲田　佑亮 （所属：薬剤部）
備考	